

春



年頭のごあいさつ

上士幌町長

竹 中 貢

新年あけましておめでとうございます。町民の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、北海道新幹線の開業やリオデジヤネイロオリンピックでの日本選手の過去最多メダル獲得など、喜ばしい出来事がある中で、熊本地震の発生や台風による過去に例を見ない災害など、生活を脅かす自然災害が多数発生し、強く記憶に残る年でもありました。

特に、昨年8月に本町を襲った4つの台風では、大雨による道路や橋梁、水道施設などインフラへの被害をはじめ、住宅や施設などへの浸水、とりわけ農作物への影響や風評被害を含めた観光客入り込みの減少など、本町の基幹産業である農業や観光業など町の産業に甚大な被害が出ており、1日も早い復旧・復興と生業の再建、更なる防災対策の強化に全力で取り組んでいく必要があります。

まちづくりの取り組みでは、本年は「上士幌町第5期総合計画」の6年目を迎えます。中でも、スピード感を伴った取り組みの推進を図るため、総合計画を補完する形で特に優先性の高い施策・事業を抽出して体系化した「上士幌町人口ビジョン・総合戦略」の3年目となります。ここに掲げた①地場産業の振興②子育

て・教育の充実③健康で安心な暮らし④人口減少の食い止め⑤小さな拠点形成、これに生涯活躍のまちを加えた重点的施策を力強く、そして着実に進め、将来を見据えたまちづくりを推進してまいります。

平成27年11月時点では888人であった本町の人口は、平成28年11月には4911人と23人の増加となっています。これまで減少を続けていた本町の人口が増加傾向に転じており、このことは町民の皆様とともに進めてきたまちづくりの取り組みが、少しずつではあります

が実を結んできた成果と感じております。

ふるさと納税におきましても、平成28年度はすでに7万件を超え、全国の皆様から本町を応援していただきたいご寄付により、特に人口減少問題と地方創生策に積極的に取り組むとともに、寄付者の方との縁を深め、さらなる町の発展につなげてまいります。

本年は、災害の復旧・復興はもとより、町民の皆様とともに歩む安心して暮らすことのできるまち、誇りを持てるオンラインのまちを目指し、職員一同全力で取り組んでまいりますので、町民の皆様の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに、ご健勝、ご多幸をご祈念申し上げ、新年のごあいさつと致します。



平成二十九年 酉年



上士幌町議会議長

杉山 幸昭

町民の皆様、新年明けましておめでとうございます。

平成29年の年頭にあたり、上士幌町議会を代表し謹んで新春のご挨拶を申し上げます。併せて、町議会に対する日ごろのご理解とご協力に対しましてもお礼申し上げます。

昨年国内的には、自然災害の多い一年となりました。4月に発生した熊本地震では、益城町で震度7を記録し、その後、10月には鳥取県中部地震により倉吉市でも、震度6弱の地震が起き過去に例を見ないような被害が発生しました。また、記憶に新しいところでは、11月22日早朝に福島県沖で発生したM7.4の地震により広範囲で津波が観測されました。また、8月にはこれまで記憶に無いような台風の上陸・接近が4回連続し、十勝地方も甚大な被害を被りました。その影響で、JRや国道の全面復旧は大幅に遅れ、日常生活や産業活動にも大きな影響と爪痕を残しました。

国際的にも大きな出来事が頻発しました。イギリスのEU離脱の是非を問う国民投票は、大方の予想を覆し離脱派が勝利し、世界的

に経済が一時混乱しました。また、こちらも同様に予想に反した結果となつた、アメリカ大統領選挙は、ドナルド・トランプ氏が勝利しました。こちらの勝利はその後、円安・株高効果となっていますが、1月20日の大統領就任後に、日本を含めた世界各国にどのような影響を及ぼすか注目されます。

選挙といえば今年3月には、町長選挙を迎えます。自然災害や政治・経済情勢が目まぐるしく変わる中、今後4年間の町政をどうするのか真剣に考える機会にしたいものです。

町議会も今年は任期の折り返しを迎えますが、昨年10月17日に初めての試みとして「市民と議員の意見交換会」を開催しました。今年も、2月の定例会終了後に開くことを計画していますので、有意義な意見交換が出来ることを期待しています。

本年も町民の皆様の変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

また、町民の皆様にとりまして健康で実り多い良い年になりますよう、ご祈念申し上げ、年頭のごあいさつと致します。